

2018 年度 小委員会活動成果報告

(2019 年 2 月 1 日作成)

小委員会名	建築外皮のエネルギー性能小委員会		主 査 名：長谷川 巖 就任年月：2017 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学委員会 (建築設備運営委員会)		委員長名：岩田 利枝 主 査 名：秋元 孝之
設 置 期 間	2017 年 4 月 ～ 2019 年 3 月		
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 既往の設計資料や研究成果を踏まえた外皮性能の評価方法のあり方の検討 ・ 空調熱負荷のみならず、自然採光利用に伴う照明負荷との交互作用を考慮した年間熱負荷やエネルギー消費との関係の分析 ・ エネルギーのみならず、温熱環境や湿気、光環境、空気質に配慮した評価検討 		
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：無		
	主査：長谷川巖 (日建設計) 幹事：佐々木邦治 (丸の内熱供給) 委員：郡公子 (宇都宮大学)、望月悦子 (千葉工業大学)、山口温 (関東学院大学)、高田 暁 (神戸大学)、佐伯美奈子 (アール・アイ・エー)、高井啓明 (竹中工務店)、川島 範久 (東京工業大学)、高瀬幸造 (東京理科大学)、佐々木真人 (日本設計)、舘景 士郎 (日建設計)、中村駿介 (三菱地所設計)		
設置 WG (WG 名：目的)			
2018 年度予算	100,000 円	ホームページ公開の有無：なし 委員会 HP アドレス：なし	

項 目	自己評価
委員会開催数	5 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会 承認企画	シンポジウム 「多角的な視点から見た今後の外皮性能のあり方」 参加者数 58 名 (資料名) 同上
大会研究集会	
対外的意見表明・パ ブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得ら れた成果との関係)	1. 全 5 回に亘る小委員会開催をし、外皮性能にかかわる全委員の研究および実 例紹介を実施し、幅広く情報交換を行った。 2. 外皮性能評価に関わる評価のあり方を討議した。 3. シンポジウムを企画し今後に向けた成果をまとめた。
委員会活動の問題点 ・ 課題	

2018年度 小委員会活動 自己評価

(中間年度評価) (最終年度評価)

総合評価 (4段階評価)	A	B	C	D
総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)	<p>本小委員会を5回開催し、シンポジウムを開催(2019年3月7日開催予定)した。外皮性能にかかわる、全委員の研究および実例紹介を実施し幅広い情報交換を行い、外皮性能評価に関わる評価のあり方について討議を行った。</p> <p>各回小委員会の主な話題提供と討議内容</p> <p>■第1回 2018/5/21</p> <ul style="list-style-type: none"> ・建築外皮性能の検討方針として、建築外皮性能に関して国際規格シンポジウム、ISO規格に関する動向調査 ・外皮性能と室内環境に関する事例考察 ・建築外皮性能 検討方針に関する議論 <p>■第2回 2018/7/11</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シンポジウム案の検討として講演者と講演内容の議論 ・外皮性能評価として、PAL*とガラス開口面積や換気開口面積、自然換気回数との相関関係プロット図の紹介 ・HEAT20の解説と情報提供。住宅における自然室温の評価 <p>■第3回 2018/9/25</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シンポジウム案の検討として講演内容の議論とパネルディスカッションの内容を検討。シンポジウム開催日の調整 ・本小委員会における次年度の活動内容の議論 <p>■第4回 2018/11/15</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シンポジウム「多角的な視点から見た今後の外皮性能のあり方」について構成と講演内容の精査を議論 ・シンポジウム講演内容の解説 ・パネルディスカッションで用いる試算事例(ASHRAE STANDARD 90.1仕様におけるPAL*値、オフィスビルにおける自然室温計算)についての議論 <p>■第5回 2019/1/25</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シンポジウムの講演発表予定者から発表内容の解説と議論 ・パネルディスカッションで用いる試算事例の解説と議論 			

- 総合評価は4段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
 - A評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
 - B評価：小委員会設置目標に対し、70%から80%の達成度
 - C評価：小委員会設置目標に対し、60%から70%の達成度
 - D評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価(シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など)に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること